

(号外)

大人のための ぎふ感染症かわら版

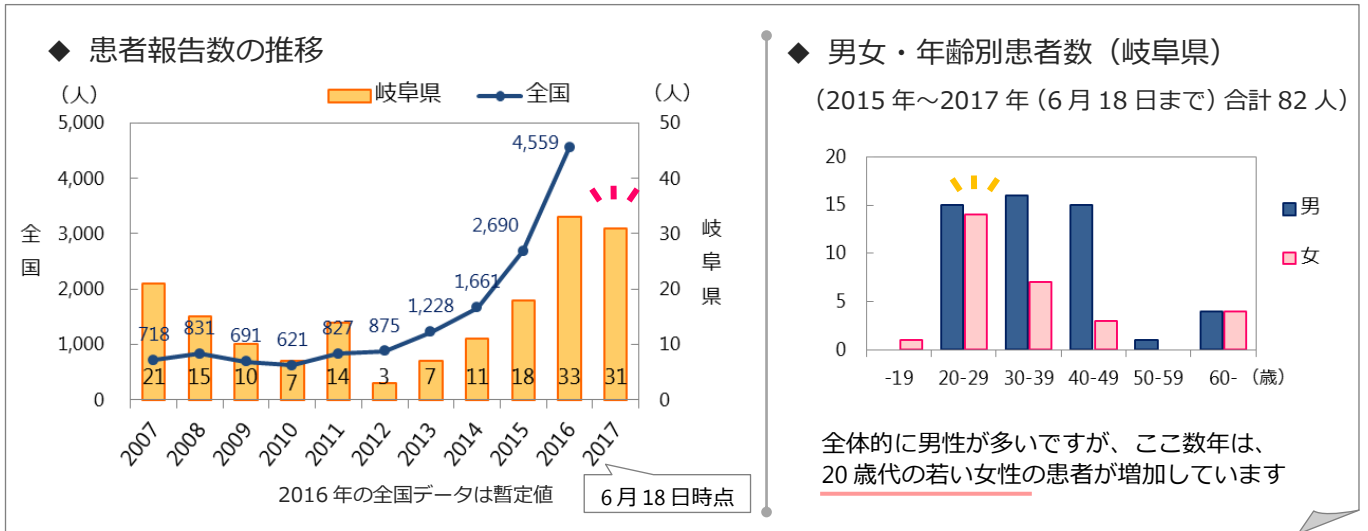
平成 29 年 6 月 23 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



梅毒患者の増加が続いています！

ここ数年、全国的に梅毒の患者が急増しています。

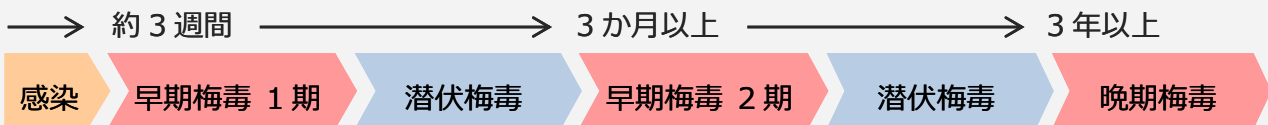
岐阜県では、今年に入ってから 31 人（6 月 18 日時点）の梅毒患者の報告があり、昨年 1 年間の患者報告数に達する勢いで増加しています。



どんな病気？

梅毒トレポネーマという病原菌による感染症で、性行為によって感染する性感染症の一つです。感染すると、長い経過で病気が進行します。感染からの時期により症状は異なり、症状が消える期間（潜伏梅毒）もあります。抗菌薬による治療で完治しますが、治療をしない限り感染は続き、自然に治ることはありません。

◆ 梅毒の経過



◆ 早期梅毒 1 期

… 感染した部位（陰部、くちびる、口の中、肛門など）にしこりができます。

◆ 早期梅毒 2 期

… 病原体が血液によって全身に運ばれ、手のひら、足の裏、体全体にうっすらと赤い発疹が出ます。発熱、倦怠感、関節痛などの症状があらわれることもあります。

◆ 晩期梅毒

… 皮膚などにゴムのような腫瘍ができることがあります。また、心臓、血管、脳など複数の臓器に病変ができ、死に至ることもあります。

どう感染するの？

性行為の際に、感染部位と粘膜や皮膚が直接接触することにより感染します。
性器の他にも、口や肛門からも感染します。

自分が感染しているかどうかを知るには？

梅毒の感染は、医師による診察と、血液検査で判断します。
皮膚科、泌尿器科、婦人科などで検査を受けることができます。



また、県内の保健所でも、匿名で梅毒の検査を受けることができます。
保健所によって検査日が決まっており、予約が必要ですので、
詳しくは保健所におたずねください。

梅毒の感染がわかった場合には、パートナーも検査を受けるようにしましょう。

◆ 先天梅毒 … 梅毒は、妊婦から胎児へも感染します

妊婦が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染し、
死産、早産、新生児死亡、新生児の障害が起こることがあり、先天梅毒といわれます。

近年、若い女性の梅毒患者が増えており、先天梅毒の増加が心配されています。
2016年には、全国で15人[※]の先天梅毒の患者が報告されています。[※]暫定報告値

先天梅毒の発生を防ぐため、初期の妊婦健診で梅毒検査が行われていますが、
検査後に梅毒に感染して先天梅毒となった例も報告されているため、
検査が陰性であっても、出産までの感染予防が大切です。



予防方法は？

不特定多数との性行為を避けることが基本になります。
また、コンドームの使用は、感染部位との接触を防ぐため、感染予防に効果があります。
ただし、コンドームが覆わない部分の皮膚でも感染がおこる可能性があるため、
コンドームで100%感染を予防できるわけではありません。
皮膚や粘膜に異常があった場合は、早めに医療機関を受診することが大切です。

梅毒は、症状の消える期間があるため、受診と治療が遅れることがあります。
自身のため、また、パートナーのためにも、早期発見・早期治療が何より大切です。
感染の心配のある方は、検査を受けましょう。



通常は、インフルエンザや感染性胃腸炎などの感染症流行状況や予防に役立つ情報をわかりやすく解説した
「ぎふ感染症かわら版」を発行しております。

くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

